

なみなみ通信

福岡県水産海洋技術センター情報誌

なみなみ通信は、センターと各研究所からの情報を、漁業者や県民の方に年4回のペースでお知らせする情報誌です。

VOL.55

発行 / 平成 25 年 1 月



養殖場で出荷を待つ錦鯉（内水面）

調査情報

- ・ 海況情報 2
- ・ 24 年度 主要魚種の資源評価の結果について 2
- ・ 有明海のり養殖状況 3
- ・ 養殖コイの疾病まん延防止のために 4

研究情報

- ・ リン欠乏がノリの生育に与える影響について 4

なみなみニュース

- ・ 原口敏治氏が黄綬褒章を受章 5
- ・ 豊前海区漁業協同組合長会が
ビジネスマッチングフェアに参加 5
- ・ 両開漁協が新のりフェアを初開催 6
- ・ 相島生まれの真珠が市場に登場！ 6
- ・ 「おめで鯛まつり」を開催 7

研究員紹介

- ・ 豊前海研究所 山田京平 7

普及だより

- ・ 糸島漁協が調理教室を開催 8
- ・ 内水面漁業研修会を開催 8

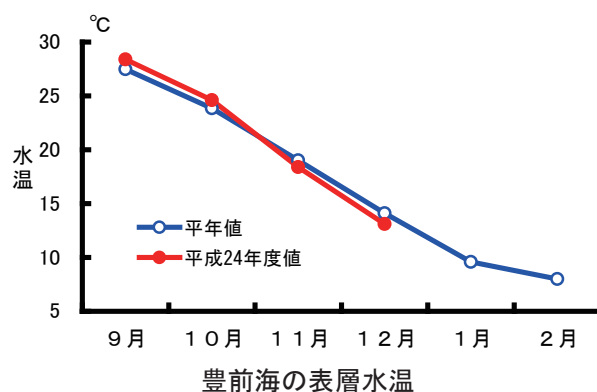
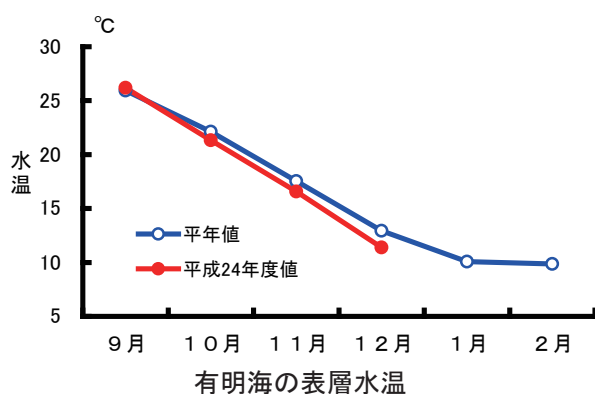
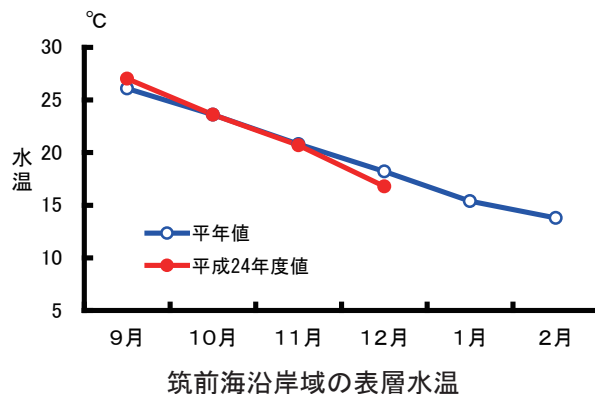
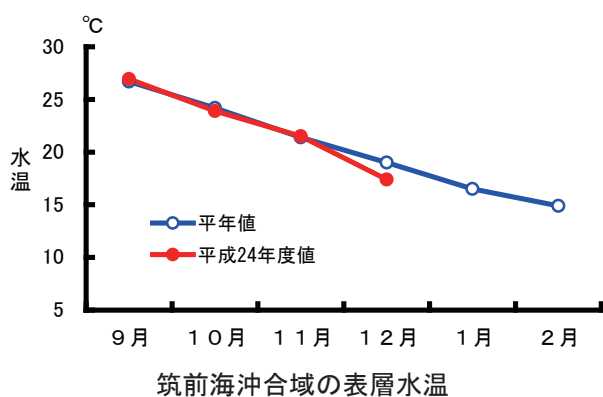
調査情報

海況情報

10～12月の表層水温は、筑前海の沖合域及び沿岸域ともに、10、11月は平年並みで、12月はかなり低めとなっています。

有明海では、10、11月はやや低めで推移し、12月はかなり低めとなっています。

豊前海では、10月はやや高めでしたが、11月には平年並みとなり、12月にはやや低めとなっています。



24年度 主要魚種の資源評価の結果について

水産資源の管理を効果的に実施するためには、対象となる資源の現状を知る必要があります。

このため、国や独立行政法人水産総合研究センター、各県の連携のもと、重要な魚種の水揚げ状況や漁獲物のサイズなどを調査し資源評価を行っています。24年度の結果がまとまりましたので、本県の主要な魚種について紹介します。

ブリは、23年度より高位水準で推移しています。

マアジ・マサバは、中位で推移していますが、最近、沿岸で漁場形成が少なく、今後、資源評価と併せ、漁場形成要因についても調査を進めていく必要があります。

サワラ（東シナ海系群）は、昨年度の高位から中位に水準が下がっており、今後の資源動向を注視していきます。

トラフグなど低位の魚種については、小型魚の保護、禁漁期の設定など資源管理の取組が引き続き必要です。

24 年度 主要魚種の資源評価の結果

魚種	系群	資源水準
ブリ		高位
マアジ	対馬暖流系群	中位
マサバ	対馬暖流系群	中位
マダイ	日本海西部・東シナ海系群	中位
サワラ	東シナ海系群	中位
	瀬戸内海系群	低位
ヒラメ	日本海西部・東シナ海系群	中位
トラフグ	日本海・東シナ海・瀬戸内海系群	低位
ケンサキイカ	日本海・東シナ海系群	低位



マサバの水揚げの風景

(センター研究部)

有明海のり養殖状況

今年度の有明海におけるノリの採苗（種付け）は、10月16日から開始されました。採苗直前には、珪藻赤潮の発生により栄養塩が低下して採苗への影響が心配されましたが、17日にまとまった降雨があり栄養塩が十分量まで回復したため、採苗は順調に終了しました。その後の育苗は順調に進み、11月8～14日にかけて冷凍網の入庫作業が行われました。また、摘採は15日から開始され、近年になく良質の製品が生産されました。秋芽生産での摘採は3～5回行われ、12月18日までの一斉撤去で終了しました。

病害については、あかぐされ病が11月11日に初認され、下旬の小潮前後で急速に拡大し、河口漁場を中心に重症化しましたが、干出管理が功を奏し、12月には小康状態となりました。一方、壺状菌病は12月3日に初認されましたが、特に大きな問題とはなりませんでした。

今年度の秋芽生産結果は下表のとおりです。海況に恵まれたため、生産枚数・金額ともに昨年度及び過去5年比を上回る豊作となりました。

ノリ生産実績（秋芽生産）



有明海におけるノリの採苗作業

ノリ生産実績（秋芽生産）

	生産枚数（億枚）	生産金額（億円）	平均単価（円）
平成24年度	3.9	44.7	11.40
昨年度	2.2	20.9	9.35
過去5年平均	3.9	39.9	10.19

※平成24年度：第3回共販までの集計

(有明海研究所)

養殖コイの疾病まん延防止のために

本県では、食用ゴイや錦鯉などの内水面養殖業が盛んです。

養殖業では、疾病の侵入を防ぐことがなによりも重要となります。このため、県では各養殖場のコイについて、KHV(コイヘルペスウイルス病)やSVC(コイ春ウイルス血症)などの甚大な被害をもたらす疾病を中心に定期的な検査を行っています。

本年度の検査の結果、これまでのところ、養殖場でのKHVやSVCの発症はありませんでした。



検査の様子

研究情報

リン欠乏がノリの生育に与える影響について

近年、福岡湾内のノリ養殖において海水中のリン(溶存態無機リン)欠乏によると思われる色落ちが頻発し、生産に影響を与えています。しかし、ノリ養殖とリン欠乏の関係については、これまでほとんど研究されていません。

そこで、リン欠乏がノリの生育にどのような影響を与えるのか調べるため、ノリをリン濃度の異なる培養液で一定期間培養する試験を行いました。

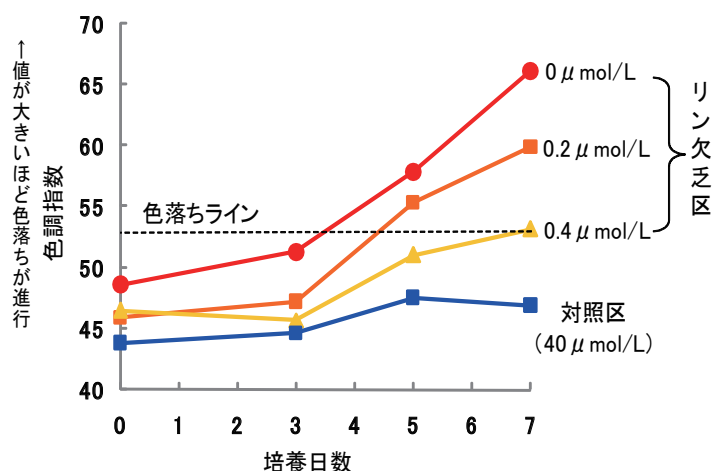
その結果、リン濃度 $0.4 \mu\text{mol/L}$ 以下でノリの色は悪化することが明らかとなり、現場で色落ちが観察されるリン濃度とほぼ同じレベルであることが確認されました。また、一度リン欠乏の条件でノリ葉体を培養すると、その後リンを十分に含む培養液に戻しても、細胞が成熟し生殖細胞に変化したり、細胞が巨大化し異形細胞となるなど、リン欠乏はノリの生育にも悪影響を与えることが明らかになりました。

今後、ノリ漁期中は漁場の栄養塩状況を的確に把握し、適切な指導によりノリ生産の安定を図っていきます。

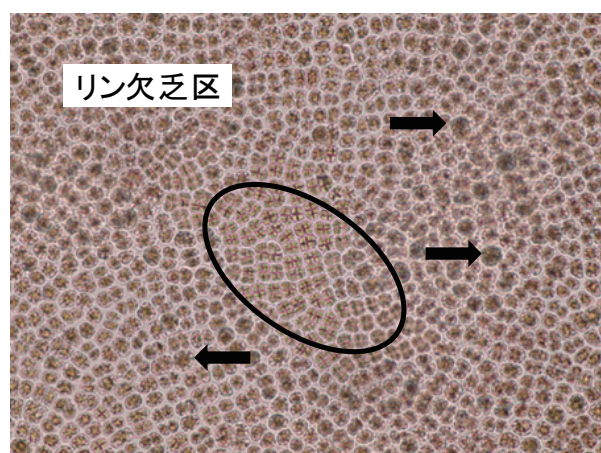


リン欠乏によるノリ製品の色落ち

(左：色落ちノリ、右：正常ノリ)



リン濃度別ノリの色調変化の推移



リン欠乏によるノリの細胞の変化

(矢印：細胞の巨大化、楕円内：成熟化)

(センター研究部)

なみなみニュース

原口敏治氏が黄綬褒章を受章

11月2日付けで、2012年秋の褒章の受章者が発表され、長年、内水面漁業の振興にご尽力された原口敏治氏が黄綬褒章を受章されました。

同氏は、下筑後川漁協代表理事組合長や福岡県内水面漁場管理委員会会長を歴任され重責を全うされるとともに、特に筑後川のエツの資源増殖に熱心に取り組まれました。

今後のご健勝をお祈りいたします。



原口敏治氏

豊前海区漁業協同組合長会がビジネスマッチングフェアに参加

豊前海区漁業協同組合長会が、11月28日に北九州商工会議所主催の農商工マッチングフェア in 北九州に参加しました。

組合長会からは、豊前海一粒かきや豊前本ガニ、ヨシエビを出品し、参加した飲食チェーンや通販関連の事業者が熱心に質問を投げかけるなど、関心の高さがうかがえました。

また、豊前海一粒かきは、ブースを訪れた事業者のほとんどが一度は食べたことがあるなど、北九州市内での認知度は高く、この地域のブランド水産物として着実に浸透しているようです。



農商工マッチングフェア in 北九州の様子



豊前海一粒かきの説明を聞く参加者

両開漁協が新のりフェアを初開催

柳川市の両開漁協において、12月15、16日に漁協主催の新のりフェアが初めて開催されました。

このフェアでは、今年、収穫されたばかりのノリを使った乾のりや、焼きのり、佃煮などの直売をはじめ、まきのり体験や新のり・新米を使ったおにぎりの配布など、様々な催しがありました。

両日とも多くの人でにぎわい、来場者の中にはまとめ買いする姿も見受けられました。



新のり即売会の様子



まきのり体験

相島生まれの真珠が市場に登場！

平成19年度に新宮町の相島で真珠養殖がスタートし、毎年、高品質な真珠が収穫されてきました。そして、25年3月より店頭での販売が開始されます。

今回は、東京や福岡の百貨店などで、真珠のネックレスやイヤリングなどの宝飾品が販売されます。

また、相島の養殖場では、今年度も上質な真珠が収穫されており、新たな真珠の産地として期待が高まっています。



相島産真珠のネックレスとイヤリング



今年度の真珠の収穫作業

「おめで鯛まつり」を開催

「フクオカ・サイエンスマンス（科学技術創造月間）」の一環として、11月23日にセンター研究施設と調査取締船「げんかい」を一般公開する「おめで鯛まつり」を開催しました。

当日は、家族連れを中心に1,000名を超える方々に来場いただき、タッチングプールや海藻のしおりづくり、投網などの各会場が多くの人で賑わいました。



海藻のしおりづくり体験



投網体験

研究員紹介

豊前海研究所 浅海増殖課 技師 山田 京平

はじめまして。

平成24年4月1日付新規採用で豊前海研究所に配属されました山田京平と申します。

私は、小さい頃、福岡市の室見川で魚を捕ったり、今津の海岸で遊んだりしたことで、将来はぜひ福岡の海や川に関わる仕事に就きたいと思い、この職種を選びました。

豊前海研究所では、主にカキ養殖に関する業務を担当しています。1年目にして豊前海のブランド「豊前海一粒かき」の担当になり、まだわからないことばかりで何に関しても学ぶことだらけですが、早く一人前になってカキの安定生産やさらなる知名度の向上に向けて頑張りたいと思います。

大学では干潟の底生生物の生態を研究していて、干潟に行くことが多かったのですが、今は船に乗って沖にすることも多く、作業の段取りを一から覚えなければ、と実感しています。

最近ドライブにはまっており、今年に入って琵琶湖一周や四国一周をしました。いずれ九州一周や北海道一周をしたいと密かにたくらんでいます。また、大学の時に部活でやっていたヨットなどマリンスポーツも好きで、機会があればまたやってみたいと思っています。

不慣れなことばかりで、いろいろと迷惑をかけることもあると思いますが、精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。



普及だより

糸島漁協が料理教室を開催

糸島漁協では、子供たちにもっと魚を食べてもらおうと、漁協女性部が主体となり糸島市内の小学校で料理教室を行っています。今年度は、小学5年生の児童を対象に、かまぼこやアジのつみれ汁の調理実習を行いました。つみれ汁に使うアジは、三枚におろすところから始めましたが、皆さん器用に調理していました。

実習終了後には、児童から「楽しかった」、「家でもやってみたい」などの声がきかれました。



アジの3枚おろしに挑戦



参加者全員で記念撮影

内水面漁業研修会を開催

11月26日、朝倉市生涯学習センターにおいて、内水面漁業関係者を対象とした研修会を開催しました。

今回は、徳島大学の浜野教授を招き、河川環境の改善について講演をしていただきました。

講演では、川の中の様々な生き物の一生や川の特性を把握し、小規模であってもその水辺にふさわしい効率的な改善策を導入していくことの重要性を訴えられ、このような取組を「水辺のこわざ」として具体例を交えながら紹介していただきました。

現在の魚道はアユなど魚を対象に作られており、カニやエビなどにとっては移動が困難なものも多く、天然石などを使った「水辺のこわざ」魚道を設置することにより、様々な生き物が移動できるようになるとのことでした。

最後に、「「水辺のこわざ」魚道は、工費も安く、何度もやり直しができるので、生態系を豊かにするために、積極的に取り組んでほしい。」と講演を締めくくられました。



浜野教授による講演の様子